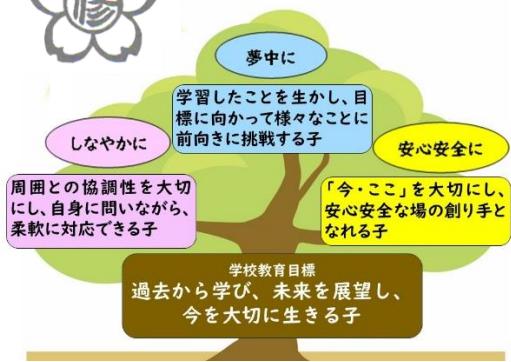




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和7年 8月29日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.36

しつもんで前向きに

みなさん、夏休みはいかがお過ごしましたか？長いようであつという間だった夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が校舎に戻ってきました。久しぶりに会う子どもたちの笑顔に、私たち教職員も元気をもらっています。私自身の夏休みは、東京での研修でコーディネーターをしたり、少しの時間だけ話をさせていただいたり、全国の教職員との交流を通して充実した時間を過ごしました。心が充実するといたるところの日常の景色が素敵な光景としてうつりまた幸せを感じるループでした。（もちろん家族と過ごす時間もありました。撮った写真を見返すと、夏の光や風の記憶がよみがえり、心が穏やかになります。）

学校においても夏休み中に運営協議会の皆様と協力して、校内の柵にペンキを塗ったり、「まなびの池」の掃除をしたりしました。炎天下の中での作業でしたが、地域の方々と一緒に汗を流しながら、子どもたちのために環境を整える時間はとても有意義で、ペンキを塗り直した柵は、見た目も美しくなり、ちょっとしたことなのかもしれませんが学校全体が明るくなつたように感じます。また、地域主催の夏祭りでは、子どもたちが太鼓やけん玉を披露してくれました。たくさんの地域の方々が集い、空には美しい半月が浮かび、まるでお祭りを歓迎してくれているようでした。様々な世代のつながりが、修学院の子どもたちへの良い影響を与えることでしょう。

そんな話をしながら始業式で、「楽しいことや面白いことを見つけるには、まず自分の心がご機嫌であることが大切です」という話をしました。心が沈んでいると、どうしても嫌なことばかりに目が向いてしまいます。例えば、「カレーライスを想像しないでください」と言われても、ついカレーライスを思い浮かべてしましますよね。一度頭に浮かんだイメージは、否定してもなかなか消えません。（夏休み終わって嫌だなあなんて子どもももつい言っちゃいますね。長い間宿題などで大変苦労された保護者の方とは正反対かもしれません…）だからこそ、心の中に「いいこと」を見つけるための質問「今日、どんな楽しいことがあったかな？」「今、どんなことにワクワクしているかな？」など自分に投げかけてみてはどうでしょう。そんなふうに、自分の心に前向きな質問をしてみると、自然と目の前の景色が明るく見えてきます。「授業が嫌だ」の前に「この授業でどんなワクワクが得られるか。」なんて考えるだけでもご機嫌でいらっしゃる（大人もですね。）2学期は、運動会や学習発表会など、たくさんの行事が待っています。新しい学びや挑戦の中で、子どもたちがどんなふうに成長していくのか、とても楽しみです。「自分はどう成長したら最高かな？」「2学期の終わりに、どうなっていたら最高かな？」そんな問い合わせに、子どもたち一人一人が自分らしく歩んでいけるよう、私たち教職員もしっかりサポートしていきます。まだまだ暑い日が続きます。熱中症や台風などにも気をつけながら、安心安全に過ごしていきましょう。



どんなことにワクワクしますか？